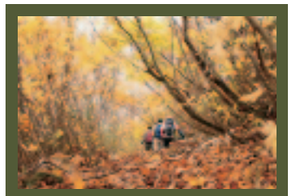
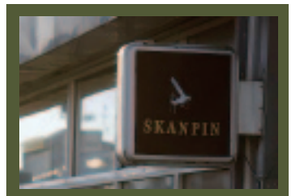
フリーペーパー
るもいfan通信
http://www.rumoifan.net
「るもいfan通信」は留萌地域の情報員による留萌地域の情報受発信フリーペーパーです。
2010年10月20日
vol.31
幌延町
天塩町
遠別町
初山別村
羽幌町
苫前町
小平町
留萌市
増毛町

増毛山道（写真協力：増毛山道の会）


【旬の人】 ・・・ P2



スカンピン ・・・ P2

るもいフードマガジン ・・・ P3

季節の食材 ・・・ P3

北海道探検の第一人者

松浦武四郎の足跡を辿る

松浦 武四郎（まつうら たけしろう）｜江戸時代末期から明治時代に活躍した探検家
蝦夷地を探査し、「北海道」という地名を名付けた

- **1818年（文化15年）** 伊勢国一志郡須川村（いせのくにいちしぐんすがわむら）（現在の三重県松阪市小野江町）で松浦圭介の四男として誕生
- ▶ **1834年（天保5年）** 北海道を除く、日本各地を歴訪する
- ▶ **1839年（天保10年）** 出家し、僧侶「文桂（ぶんけい）」を名乗る
- ▶ **1845年（弘化2年）** 第一回蝦夷地探査 道南・道東方面を探査
- ▶ **1857年（安政4年）** 第五回蝦夷地探査 留萌管内などを探査 増毛山道を見分
- ▶ **1869年（明治2年）** 開拓判官（かいたくはんがん）につく「蝦夷地」に代わる名称として「北海道」を考案
- ▶ **1888年（明治21年）** 東京都神田五軒町で亡くなる（享年七十一歳）

鏡沼の「松浦武四郎」銅像【天塩町】

鏡沼（かがみぬま）海浜公園内に設置されている銅像。松浦武四郎は三度天塩を訪れた。その時の調査は「再航蝦夷日誌」「西蝦夷日誌」「丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌」で知ることができる。

にしん文化歴史公園の「松浦武四郎」像【小平町】

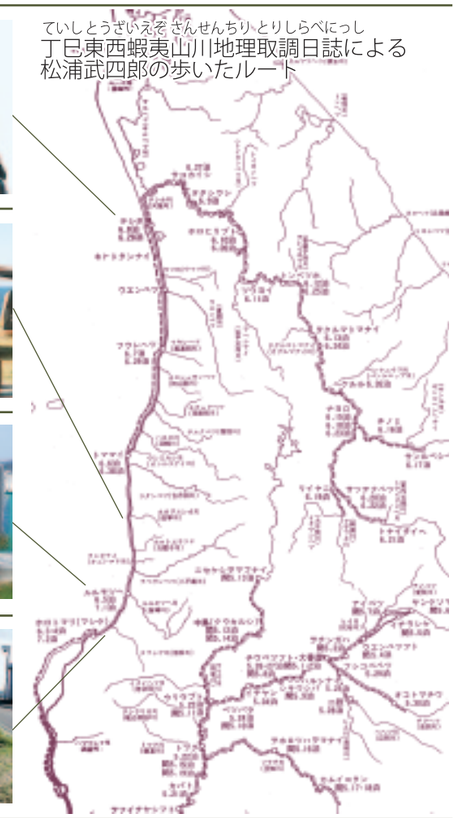
道の駅「おびら鰊番屋」向かい、「にしん文化歴史公園」内に設置されている像。「西蝦夷日誌」には、この地で読んだ短歌「何も似ず　すがたやさしき女郎花　なまめき立てるおにしかの里」を見ることができる。

「松浦武四郎踏査の地」記念碑【留萌市】

留萌港を見下ろす望洋公園内に設置されている記念碑。かつて松浦武四郎が留萌を訪れた際、ここでスケッチを行ったとされている。隣には海の安全を見守る湊神社が建立されている。

「松浦武四郎信砂越えの地」標【増毛町】

国道231号線沿い、信砂（のぶしゃ）橋の増毛側にある標。松浦武四郎がヌプシャ越えを達成したとされる地。ヌプシャ越えとは、雨竜町から恵岱別（えたいべつ）川筋を辿って峠に上り、信砂川の上流から海へ下ることである。



イベント情報

留萌市
「るもいコミュニティカフェテリア」
■日　時：11月5日（金）・6日（土）
■場　所：るもい健康の駅
■定　員：各回30名（事前予約制）
■参加料：500円
■受　付：0164-42-3871
（エフエムもえる）

留萌地域情報サイト るもいfan
あなたの 人・食・地域の情報おまちしております！
発行・編集／地域情報受発信システム実行委員会
北海道留萌市船場町
２丁目 JR 留萌駅２階
TEL：0164-42-3871
FAX：0164-42-2200
FM もえる 76.9MHz
「わがマチ元気発信」
平日 8:25/12:25/18:25~
http://rumoifan.net
毎日情報更新中！
ポッドキャスト配信中
るもい fan.net トップページ
「食の交流放送」からアクセス

フリーペーパー るもいfan 旬の人

小杉忠利さん

KOSUGI Tadatoshi

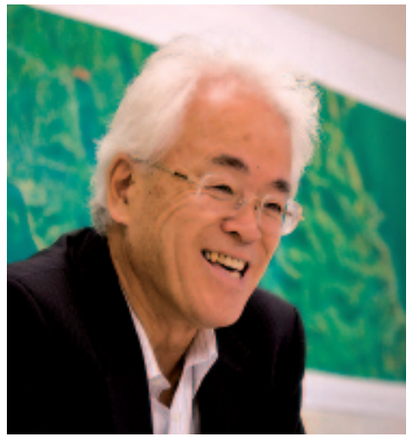
増毛山道は眠れる宝

踏査。実際にその地へ赴き調べ真実を知ること。江戸時代後期の測量学者、伊能忠敬は50代から日本沿岸を実測、忠敬の没年に生まれた松浦武四郎は蝦夷地探査に力を尽くした。増毛の山塊に眠る古道は、現代に生きる人々の踏査により蘇る。

若き日の山

昭和15年、留萌生まれの小杉忠利さんは留萌高校を卒業後、進学のため上京した。大学では山岳部に所属し北アルプスや南アルプスの名だたる山に挑戦。下界に降りれば、またすぐに山に戻るような生活を送った。「山の魅力は仲間」初めての登山は高校の時に友と登った暑寒別岳だった。この時の楽しかった思い出が次々に山へ挑ませたと青春時代を振り返る。卒業後は大手建設会社に就職し、高度経済成長期を昼夜を分かたず、がむしゃらに働き続けたが脱サラし、測量士の資格を活かして昭和50年に故郷で起業した。

それから30年後の平成17年に伊能忠敬の大日本大図展を留萌で開催した小杉さんにひとつの転機が訪れた。資料作成の際に増毛山道を知ることとなったのだ。



プロフィール

小杉　忠利さん

昭和１５年生まれ　留萌市在住

小杉測量設計株式会社　代表取締役

ＮＰＯ法人 増毛山道の会　理事

夢継ぐ道

今から約150年前に、伊達林右衛門が私財を投じて開鑿し、増毛と浜益を結んだ山道は、今や草木に埋もれ失われた道となっていた。

自社の測量技術をもって、この道の全容を明らかにすれば、地域に貢献することができるのではないか。決断は早く、ルート上の航空写真を撮影し、その連続写真を元に、人工衛星によるＧＰＳで正確な位置を座標で管理した。

その後、小杉さんは伊達家直系の伊達東さん（札幌市在住）の呼びかけにより平成20年に発足した増毛山道の会のメンバーとして中心的な役割を果たしている。同会が発足して2年あまり、地権者である北海道が所有する土地や林地の笹を刈り、別苅～岩尾間16㎞の復元作業を成した。10月16日には実際に山道を関係者らが歩き、今後の利活用について話し合った。

「増毛山道が整備されれば新たな観光資源、登山ルートが生まれる。蝦夷地の歴史、象徴としての道を子供達が先人の生活を想像しながら歩けたらと」山を愛する小杉さんの夢は広がる。

当時、幕府の命により完成した道の見分に訪れた松浦武四郎が『蝦夷地、第一の出来映え』と褒め讃えた増毛山道。

今、まさに先人が踏査、開鑿した道が、現代技術と人々の想いで歴史から掘り起こされる。

【増毛山道に残る電話線と電信柱】
かつて電話線が引かれていたことがわかる。
山中には倒壊したものを含め十数本の電信柱が残っている

NPO 法人増毛山道の会
留萌市錦町３丁目　電話：0164-56-0003
http://www.kosugi-sp.jp/sando/top.html （現在会員募集中）

スカンピン

増毛町市街地にあるスカンピンは平成16年に開店したパン屋さんだ。店主は札幌市から移住してきた池田さん夫妻。妻の敦子さんがパンを焼き、夫の太郎さんが接客と販売を担当している。町内の事業所などへ移動販売も行っている。店の名は二人が好きなバンドの曲名から名付けた。

店頭にはバゲット、カンパーニュ、デニッシュや惣菜パンなど約30種類が並ぶ。中でも町民に人気が高いのは定番のバゲットだ。

毎年、秋には地元の果物を使ったアップルパイと洋ナシデニッシュが店頭に並ぶ。洋ナシデニッシュは11月中旬まで、アップルパイは3月までの販売となる。

ぜひ一度、味わってみてはいかがだろうか。

季節限定のパイとデニッシュは少量販売のため売り切れる場合もある。

スカンピン　skanpin
〒077-0214
北海道増毛郡増毛町畠中町３丁目
営業時間　10：00 ー 18：30
定 休 日　日曜日

ＮＰＯ法人 増毛山道の会

古の道

増毛山道が開鑿されたのは北海道がかつて蝦夷地と呼ばれていた江戸時代末期の安政４～５年のこと。当時、増毛と浜益の両場所（ニシン漁）の請負人であった、伊達林右衛門が函館奉行の勅命にて私財を投じ開鑿した。

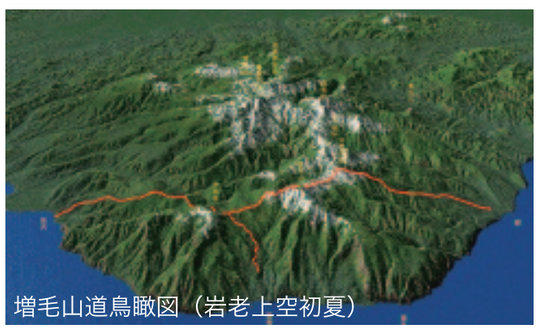
増毛山道は増毛町別苅から石狩市浜益区幌まで約27㎞あり、ルート内には標高１０００ｍの険しい箇所もある。

蝦夷地の先住民であったアイヌが、狩りやコタン（集落）間の交易のため獣道を利用した踏み分けを基に、伊達氏が道幅約２～３ｍ程に開鑿整備した。

当時は商用や生活道路として使われていたようだが、険しい山道ゆえ、時代の流れとともに次第に忘れ去られた道となった。

復元に向け

平成20年、伊達林右衛門の直系である伊達東さんの呼びかけにより、幻の道復元に向け、任意団体として増毛山道の会は発足した。増毛山岳会、留萌山岳会、黄金山岳会、濃昼山道保存会の有志が集まり、これまでに山道の測量や笹刈り、復元作業を着々と進めてきた。今年はＮＰＯ法人を取得し、更に活動の幅を広げるためＨＰで山道への理解と協力を呼びかけている。



増毛山道鳥瞰図（岩老上空初夏）

カフェテリア

るもい フードマガジン便り

食材の豊富な留萌でも、たまの外食するときは「これはどこのもの？」という心の声を無視するしかありませんでした。

そんなとき、地元の食材が使われている「るもいコミュニティカフェテリア」が始まったことを聞きました。

期待通り、食材のほぼすべてが地元産で作られていて、メニューには、食材の生産地や買えるところ、興味深い栄養のポイントなどが書かれていて、さらにレシピまで付いていたのです！

このカフェテリアは、地元の人に地元の良さを知ってもらうことで、時節の地元食材を地元の人が日常的に使うことを勧めるという独自の目標を持っていることに気づかされました。

料理の見た目も味も、独特なこだわりで和洋がブレンドされ、高級感があって安心も得られて大満足です。

「緑の葉恐怖症」の５歳の息子はオリジナルのドレッシングをかけたホウレンソウを全て食べました。子供の舌はごまかすことができませんね。

カフェテリアは本物だと私は思います。

ただ残念なのは月４日だけの開催ということ。私のまわりでもファンがますます増えているようです。次回も楽しみにしています。

主宰　佐藤アレーナさん

「るもいフードマガジン」は留萌管内の地産地消・食についての情報交換の場です。どなたでもご参加できます。

るもいフードマガジン
〒077-0046 北海道留萌市港町３丁目１３番地
TEL/FAX：0164−42−9757
E-mail：alainasato@hotmail.com

季節の食材 31 リンゴ

秋の果物の代表格といえばリンゴ。増毛町の果樹園では真っ赤に実ったリンゴの収穫期を迎えている。

増毛町のリンゴ栽培の始まりは明治16年のこと。増毛町がニシン千石場所と呼ばれ栄えていた頃だ。商家の小林吉三郎氏の庭に植えられていたリンゴの木に興味を持った藤原筆吉氏が、自身の畑がある暑寒沢の地に植え、本格的な栽培を始めたことに由来する。

現在では観光果樹園も多く、旭、つがる、北上、ハックナイン、紅将軍などさまざまな品種が栽培され、ジャムや羊羹、シードルなどの加工品製造も盛んとなっている。

シードル（奥）
増毛フルーツワイナリー
0164-53-1668

果樹園特製ジャム（中央）
お勝手屋 萌（留萌市）
0164-43-1100

林檎羊羹（手前）
中村屋製菓
0164-53-2321